

## 令和8年度委員長所信表明



全日本教職員連盟 第16代委員長 渡辺 陽平

### 子供たちの未来を切り 拓く教育の確立に向けて

新たな年度を迎え、全国各地において新しい教育活動が始まっております。全日教連並びに教文研会員の皆様におかれましては、それぞれのお立場において、決意も新たに子供たちのために御尽力されていることと拝察いたします。

私自身、委員長として3年目を迎えるに当たり、その責任の重さを改めてかみしめております。これまでの2年間、皆様に支えられながら、全日教連の理念を内外に示し、教育正常化に向けて歩みを進めてまいりました。皆様の温かい御支援と力強い御協力に、心より感謝申し上げます。

全日教連は、「美しい日本人の心を育てる」という理念を掲げ、教職員を単なる労働者ではなく、専門性と高い倫理観を備えた「教育専門職」として位置付けてきた団体です。この理念は、時代の変化の中にあっても揺らぐことのない私たちの原点であり、より一層明確に社会に発信していかなければなりません。

教育を取り巻く環境は依然として厳しく、学校現場のみならず制度や社会の在り方そのものが問われていますが、どのような時代であっても、教育の本質は不変です。子供たちの可能性を信じ、その成長を支えるという使命を果たすため、私たちは教育専門職としての矜持をもって行動してまいります。

3年目の出発に当たり、更なる前進を期す決意です。全日教連は子供たちと向き合い、学校現場で奮闘する皆様と力を合わせ、国民の負託に応える教育を確立するために以下の点を今年度の活動の重点とします。

#### 【要望・提言活動の充実】

令和7年度の全日本教職員連盟は、子供たちにより良い教育環境を確保するとの観点から、教育現場の実情を踏まえた要望・提言活動を積極的に展開してまいりました。その成果の1つとして、教育専門職としての教職の魅力を高め、優れた人材を確保するとともに、教育を本来の姿に取り戻す教育正常化を進めることにより、子供たちの未来を支えるより良い教育環境を実現することを目

的とする給特法等改正法が成立し、教職調整額の段階的な引き上げや働き方改革の推進等、学校の教育環境の改善に向けた取組が進められることとなりました。とりわけ、教職調整額を将来的に10%へと引き上げていく方向性が示されたことは、教職の魅力向上を通して優れた人材を学校現場に迎え、子供たちの学びを支える基盤を強化するものとして重要な前進であると受け止めております。

この改正法の審議に当たり、全日教連は教育現場の声を国に届けるべく活動を重ねてまいりました。令和7年4月25日に行われた衆議院文部科学部会では、学校現場を代表して意見を申し述べる機会をいただき、教職調整額の増額、学校における働き方改革の着実な推進、そして教職員が子供たち1人1人にしっかりと向き合うことができる教育環境の整備の必要性について、教育現場の実情を踏まえて強く訴えてまいりました。今回の法改正は、子供たちのより良い学びの環境を整備するための第一歩であると受け止めております。

しかしながら、学校現場に目を向けますと、不登校児童生徒の増加や特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応等、子供たちを取り巻く教育課題は一層多様化・複雑化しています。加えて、教師不足の問題も深刻さを増し、文部科学省が令和7年度に公表した「教師不足に関する実態調査」によれば、令和7年5月1日時点で、全国の公立学校における教師不足は3827人に上り、4年前の調査から80%以上増加していることが明らかとなり、学校運営や教育活動の継続にも影響が及びかねない状況となっています。

更に、社会から学校に寄せられる期待が拡大する中で、学校が担う役割も広がり続けています。子供たちが落ち着いた環境の中で学び、健やかに成長していくためには、学校が本来果たすべき教育の役割に十分に力を注ぐことができる環境を整えることが不可欠です。

このような現状を踏まえ、令和8年度は要望・提言活動をこれまで以上に充実させてまいります。子供たち1人1人の学びを充実させるための教育条件の整備、学校が教育活動に専念できる体制の確立、そして将来を担う子供たちの成長を支える教育環境の充実について、教育専門職の立場から具体的な提言を行ってまいります。また、学校が子供たちの人格形成と学力の向上という本来の使命を十分に果たせるよう、教育の本質を踏まえた制度や施策の在り方について、国や関係諸機関に対して提言を重ねてまいります。

教育は国家100年の大計であり、その中心にあるのは子供たちの成長です。全日教連は、「美しい日本人の心を育てる」理念の下、子供たちが健やかに学び、未来に希望をもって歩んでいくことができる教育の実現に向け、尽力してまいります。

#### 【質の高い研修の充実】

学校教育を取り巻く環境は大きく変化しており、不登校児童生徒の増加や特別な教育的支援を必要とする児童生徒への対応、更にはICTの活用の進

展等、教職員に求められる役割と専門性は一層高度化・多様化しています。また、教師不足や多忙化の中にあっても、子供たち1人1人に寄り添った質の高い教育を実現していくことが求められています。

こうした状況の中で、教職員が教育専門職としての力量を高め続けることは、子供たちの確かな学びと成長を支える上で不可欠であります。「美しい日本人の心を育てる」理念のもと、教育の本質に立ち返った研修の充実に一層努めてまいります。

具体的には、多様な研修の機会を通じて、実践に根差した学びの深化を図ってまいります。特に、第43回教育研究全国大会（徳島大会）においては「主体的に社会を形成し未来を切り開く力を育む教育実践～豊かな人間関係の中で学び合い高め合う子供の育成を通して～」を主題とし、各分科会での実践発表や研究

協議、助言者による指導等を通して、子供たちの資質・能力の育成に資する具体的な教育の在り方を共有してまいります。

また、こうした大会での成果を学校現場へと還元し、優れた教育実践の横展開を図ることで、日々の教育活動に直結する実効性の高い研修の推進に取り組んでまいります。

教職員の資質能力の向上は、子供たちの未来を支える教育の質の向上そのものであります。教育専門職としての自覚と誇りを胸に、学び続ける組織としての歩みを更に確かなものとしてまいります。

#### 【組織の強化・拡大】

全日教連の活動は、教育専門職としての取組が内外から着実に評価され、各方面において理解と共感の広がりを見せてまいりました。教育課題に対する現実的かつ建設的な提言や、「美しい日本人の心を育てる」理念に基づく実践は、教育関係者のみならず、各方面から評価をいただいているものと受け止めております。

一方で、我が国における児童生徒数の減少に伴い、教職員数そのものが減少傾向にあることに加え、教職員の多忙化や価値観の多様化等を背景とした組織離れの傾向も見られ、全日教連を取り巻く環境は決して楽観視できる状況にはありません。組織の維持・発展に向けた対応が喫緊の課題となっています。

しかしながら、会員の皆様の地道な活動の積み重ねにより、組織としての基盤は着実に支えられており、日々の教育実践に根差した活動こそが全日教連の信頼の礎となっています。

こうした現状と成果を踏まえ、来年度においては組織の更なる強化・拡大を目標として掲げてまいります。とりわけ、次代を担う若い世代の参画を一層促進するとともに、全日教連の理念と活動の意義を丁寧に発信し、共感の輪を広げることで新たな仲間の獲得につなげてまいります。

更に、これまで十分に組織化が進んでいない未組織地域に対しては、各地域

の実情を踏まえ、きめ細かな働きかけを行い、組織の立ち上げや基盤づくりを積極的に進めてまいります。単位団体との連携を一層強化し、その知見や経験を共有しながら、全国的な組織力の底上げを図ってまいります。

組織の充実は、子供たちのより良い教育環境の実現に直結するものであります。志を同じくする仲間とともに、理念の実現に向けた歩みを更に力強く進めてまいります。

結成 43 年目を迎え、全日教連の役員一同は、子供たちの健やかな成長と我が国の未来を見据え、「美しい日本人の心を育てる」理念のもと、教育の本質を見失うことなく着実に歩みを進めてまいります。そして、これまでの歩みへの感謝と敬意を胸に、その志を確実に次代へと継承してまいります。全日教連の総力を結集して、子供たちの未来を支える教育の実現に全力で取り組んでまいります。

令和 8 年 4 月 1 日